

## 第6回 ボランティア研修会

### 有意義だった

### 中身の濃い内容

第6回ボランティア研修会が七月十八日十時から東部障害者福祉会館集客室で開催されました。

参加者はボランティアさんをはじめ、コーディネーターなど39名でした。

講師には、北九州市社会福祉協議会ボランティアセンター 石川有三次長を迎え講義を聞きました。

石川講師は、ボランティア



石川講師の講義に熱心に聞き入るボランティアさん

活動の歴史から語られました。戦前は隣組活動で相互扶助をしていました。戦後はセツルメント活動が児童文化活動としてはじめられました。

その後、社会教育活動が開始され、銀行などが募金を提供するようになりました。

昭和40年には、共同募金により、全国規模で社会福祉協議会がつくられました。昭和55年には住民参加型の在宅福

祉サービスが開始されます。平成5年にはふれあいネットワーク事業ができ、年々ボランティア事業は前進をきています。

石川講師は、現在の北九州市での社会福祉事業についても、数字をあげて具体的に説明されました。

シルバークリスマスサービス、送迎サービス、移送サービスなど、社協が行っている事業などを紹介されました。

阪神・淡路大震災以後ボランティア活動が全国的に注目を集めるようになりました。

それでも、圧倒的にボランティアの数が少ないことを指摘されました。

今後の展開については、介護保険の導入により、在宅介護が行政により、国民の保険をもとに、行われることになると見込まれています。現在、介護保険

は厚生省で検討中なので、はっきりしたことは言えませんが、数カ所の欠陥を指摘されました。

最後に、ボランティア活動の性格と機能について述べられました。

今までは、行政依存、企業依存のボランティア活動であったが、今後は、市民サイドの活動が望まれる。また、事例研修、体験研修など、横のつながりを密にとり、交流をすることにより、ボランティア活動の更なる発展を目指す必要がある、と締めくくられました。

久しぶりに、骨のある、本格的な講義が聞けたと、参加者一同、大きな収穫を胸にして、ボランティア研修会を終わりました。

## 社協より 車椅子を借りる

ボランティア研修会で交流が出来た、北九州市社会福祉協議会に、「さわやか」小倉では、透析通院の患者さんの車椅子を、貸してもらおうよう要請しました。

その結果、快く車椅子を借りることができました。

## 車椅子を借りる

患者さんは、自分に合った車椅子を制作中で、不自由をされていました。新しい車椅子が完成するまで、社協より貸して頂けることになり、コーディネーターの榎原さんも一安心しています。ありがとうございます。

## ボランティアネットワーク

### (アンケートより)

※高島 弘子 さん  
直方市感田王子団地

※谷 安 さん  
小倉南区中曽根東

◎応募の動機  
現在、自分も透析治療を受けており、15年になります。国の恩恵などを受け、治療費に頭を悩ますこともなく(現在のところ)過ごしておりますので、身体が自由に動けるうちに何か役に立つことができたいと思い、又、いずれお世話にならないといけない時もあると思い応募しました

◎応募の動機  
会社休年後一年半が過ぎ、何か私にお手伝い出来る事がないだろうかと思っていたところ「さわやか」を知り一言無く応募しました。

◎「さわやか」に一言  
特にありません。

◎「さわやか」に一言  
担当の患者さんは目が不自由なため、不安を感じやしなやかと思いきや娘を同行したり、妻にも送らせ家族ぐるみのお付き合いです。

◎趣味・特技  
趣味は旅行と映画を見ることです。今までは2泊3日までの旅行(透析を始めてから)しか行かなかったのですが5月にツアーが実行されればカナダに行ってみようと思っ

◎趣味・特技  
写真 土、日、は殆ど仲間と歩いています。

◎ボランティア活動とは  
奉仕という言葉が好きですお手伝いさせていただくことで自分自身に励みが出てきます

◎ボランティア活動とは  
奉仕という言葉が好きですお手伝いさせていただくことで自分自身に励みが出てきます

## 第17回 腎移植推進 街頭キャンペーン

10月4日 13時

魚町周辺  
黒崎駅周辺

心臓、肝臓、腎臓、角膜などの意思配付をします